

日本藻類学会第 36 回大会開催記・参加記

小亀一弘：第 36 回大会を終えて

日本藻類学会第 36 回大会は、2012 年 7 月 13 日（金）～15 日（日）に北海道大学学術交流会館で行われました。一日目には、編集委員会と評議員会、二日目に口頭発表、ポスター発表（奇数）、特別講演、総会、懇親会、三日目に口頭発表、ポスター発表（偶数）、公開講演会が行われました。参加者は、一般 163 名（うち当日参加 27 名）、学生 85 名（うち当日参加 3 名）、合計 248 名でした。口頭発表 73 題、ポスター発表 87 題の発表がありました。また、藻類学ワークショップ I が大会一日目に北海道大学理学部で、藻類学ワークショップ II が 7 月 16 日（月）～18 日（水）に北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所で行われました。

札幌での大会は、2004 年 3 月以来 8 年ぶりになります。例年ですと大会開催時期は 3 月末ですが、札幌の 3 月はまだ寒く、雪もまだ多く残っており、あまり良い季節ではありません。そこで今回は、北海道観光にも良い季節の 7 月に大会を開催することといたしました。いつもと時期が異なり、また、大学は学期中なので、都合の悪い方が増える心配がありました。また、第 9 回アジア・パシフィック・マリンバイオテクノロジー国際会議と開催日程が重なってしまい、これは大変申し訳なかったのですが、札幌大会の参加人数が大変気になるところでした。その様な心配はよそに、多くの方が札幌に来てくださいましたことに大変感謝いたします。

大会会場の学術交流会館は、JR 札幌駅から徒歩 10 分、北海道大学正門から入ってすぐ左側にある建物で、200 人収容の大会議室と小講堂、大きなホールが 1 階にあり、2 階には

300 人収容の講堂があって、2004 年の札幌大会も学術交流会館で行われたのですが、日本藻類学会大会の規模と比較してちょうど良い広さと考え、今回もここで行うこととしました。しかし、実際に行ってみて、広さに余裕はなく、窮屈なくらいと感じました。2004 年の札幌大会では、口頭発表 68 題、ポスター発表 30 題、参加者 196 名でしたので、それと比較すると今回はポスター発表で 57 題、参加者も 52 名多く、大会規模は確実に拡大しているようです。あと 50 名参加者が増えたらここではもう狭いなあと言うのはこちらの心配です。

大会一日目、藻類学ワークショップ I は理学部の建物で 13 時から行われました。ワークショップは、河地さんが例年企画のお世話をされていますが、今回は長里さんがお世話をされました。詳しくは、ワークショップ参加記をご覧ください。編集委員会と評議員会も理学部で行いました。どちらも学術交流会館で行うこともできましたが、急なコピー依頼への対応などを考えるとやはり慣れた理学部の講義室の方が安心というこちらの理由で会場を決めました。評議員会は 15 時 30 分から 18 時の予定でしたが、予定時刻には終わらず、19 時 30 分過ぎまで熱のこもった議論が続きました。その間、学術交流会館では、翌日のために会場準備が行われていたのですが、こちらは四ツ倉さんと学生が 21 時頃までかかって準備しました。

大会二日目、予想通り朝早くから多くの方が受付に訪れ、多少の混乱のうちに口頭発表が始まりました。昨年の富山大会では、各発表者が自分のパソコンをプロジェクターに接続して発表するという方法が取り入れられましたが、おおむね好評のようでしたし、他学会でも行われてきているので、札幌大会でも同様の方法で行うこととしました。トラブルはしばらくしてやってきたのですが、パワーポイントの画面がけられて正常に映写できなくなってしまいました。結局はポータブルのプロジェクターに交換して行うようにしましたが、発表者の方々には大変なご迷惑、ご心配をお掛けしてしまい、大変申し訳ございませんでした。あのときうまく写らなかったよねという、そんな記憶に残る大会になってしまったかも知れません。それでも、発表者の方々のご協力でなんとかプログラムを予定通り行うことができ、皆様に感謝申し上げます。また、口頭発表の 2 つの会場は、ときに席が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。映写トラブルの原因は会場のプロジェクターの特殊性が原因だと思いますので、これに懲りずに今後も各自のパソコンを使う発表方法を選択肢の一つとして残していただきたいと思います。

創立 60 周年記念講演では、初めに 60 周年記念事業の紹



ポスター会場の様子

介を行い、続いて、北海道大学名誉教授の吉田忠生氏にご講演をしていただきました。記念事業に関しては、藻類図説DVD、日本藻類学年表、学会ロゴの制定の紹介がありました。吉田氏のご講演では、60年間の日本藻類学会と藻類学の発展についてのお話に加え、若い方々への期待のメッセージをいただきました。聴衆の方々は、皆さん感慨深く聞いていらっしゃいました。時間的制約もあり創立60周年の大会としての企画はこれだけで、盛り上げ方が足りなかったと反省しておりますが、例年と違う雰囲気を感じていただけたのではないかと思います。大会会場で学会ロゴの投票ができるように、応募のあったロゴデザインを掲示して投票箱を設置いたしましたところ、大変多くの投票がありました。ご投票下さいました方々に感謝いたします。

ポスター発表についても、例年通り大変活気があり盛況でした。ポスターパネルの間は3mとりましたが、それでもまだスペースに余裕がないようでした。あと、心配していたの



60周年記念事業の紹介



北海道大学名誉教授吉田忠生氏による60周年記念講演

は照明が少なく全体的に暗いことで、そのためポスターがやや見にくかったと思いますが、にもかかわらず、熱心な発表と討論をしていただきましたこと、大変感謝いたします。発表時間の1時間はあっという間に過ぎたのではないかと思います。発表数も多くなっていますし、発表時間を少し長くすることを今後検討しても良いかも知れません。

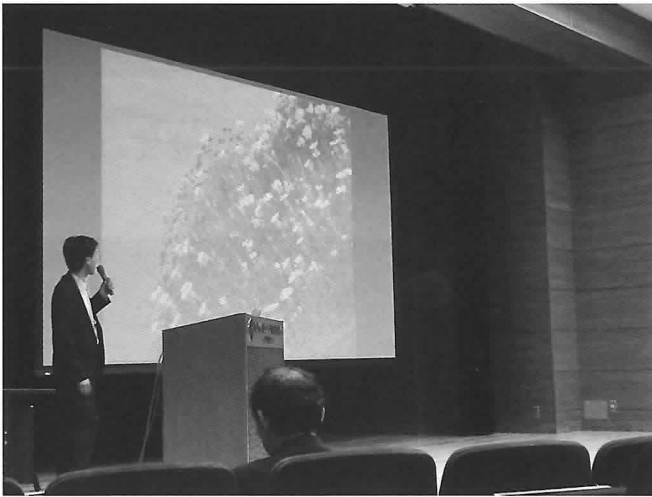
総会の後、18時45分より工学部食堂で懇親会を行いました。懇親会会場は中央食堂と事前にご案内していましたが、中央食堂では小さな部屋しか使えないことがわかり、急遽、会場の変更となりました。会長挨拶の後、創立60周年のお祝いとして、樽酒の鏡開きを歴代会長の吉田氏、有賀氏、石川氏、川井氏、堀口氏、そして前国際藻類学会会長のBolton氏にしていただきました。懇親会参加者は約190名で、大会参加者の8割弱の方々が懇親会に参加しました。料理についてはどれだけご期待に添えたかわかりませんが、タラバガニなどもあり、量、質ともに大体ご満足いただけたのではないかと思います。懇親会後には例年通り、学生主催による「若手の会」も開催され、大いに盛り上がったようです。

大会三日目も、口頭発表、ポスター発表ともに、前日の疲れを感じさせない盛況ぶりでありました。公開講演会では、北海道を代表する藻類であるコンブとマリモについて、四ツ倉典滋氏（北海道大学）、澤晶子氏（味の素（株））、若菜勇氏（釧路市教育委員会）にご講演いただきました。事前には二宮くみ子氏（NPO うま味インフォメーションセンター）のご講演をご案内しておりましたが、急病のため澤氏に代わっていただきました。公開講演会は北海道大学総合博物館との共催で行われ、博物館から一般への広報をしていただきました。参加者は130名ほどで、うち50名ほどが市民の方でした。

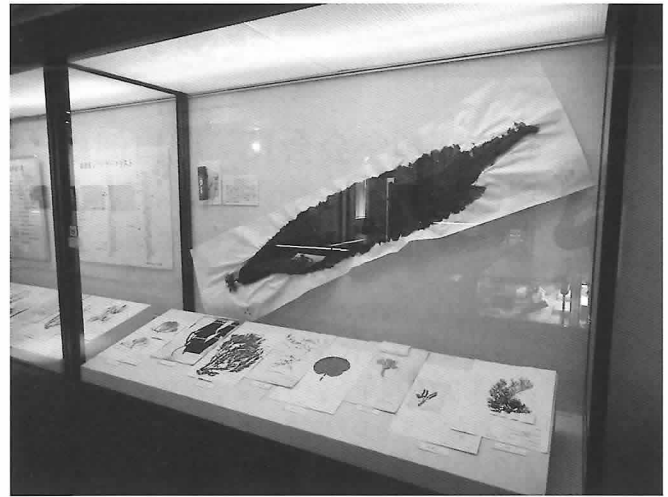
今大会には、外国の著名な藻類学者も参加しておられました。申宗岩氏ら7名の方々が韓国から参加・発表されました。南アフリカのJohn Bolton氏ら3名、ニュージーランド



歴代会長とJohn Bolton氏（南アフリカ）による創立60周年をお祝いする鏡開き



公開講演会の様子



北大総合博物館の企画展示「藻類が人類の未来を救う」の展示物

の Wendy Nelson 氏も参加され会員との交流を楽しまれました。

大会期間中、北大総合博物館では、ちょうど企画展示「藻類が人類の未来を救う」が行われており、これは日本藻類学会が共催しているものでもあるのですが、そちらを見学された方も多かったのではないかと思います。

大会会場では、北大の大学院生が中心となって作製した大会オリジナルグッズの販売も行いました。一枚一枚手作りでデザインを入れたエコバック、ブックカバー、ツノモやエミリアニア・ハクスレイのリアルに立体的なキーホルダーとマグネットは、とても苦勞して作製した自信作であったようです。そのためか価格設定がちょっと強気で、それが良くなかったと思うのですが、残念ながらあまり売れなかったようです。残ったものは、北大総合博物館の販売コーナーに置いてもらい、そちらは価格を下げて完売したとのことでした。

会場には、また、藻類絵はがきの会による募金コーナーが設けられました。これは、前年の大震災で被害を受けた吉崎誠氏の海藻標本コレクション救済のために企画されたものです。

今大会では、口頭発表の申込が多かったため、昼休みを短くするなどして最大限発表枠を広げましたが、それでも希望者数が発表枠を超え、10題ほどをポスター発表に変更していただきざるを得ませんでした。ご希望に添えなかったことを改めてお詫び申し上げますとともに変更にご協力いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。近年、学生会員の参加・発表が増えてきているのではないかと思います。学生も業績をシビアに評価されるようになり、そのことが関係しているのかも知れません。ポスター発表よりも口頭発表が評価されるのか、学生の口頭発表が増えている気がします。また、英語での発表も行われるようになってきました。大会規模の拡大にどのように対応していくか、今後の開催地での悩みになるかも知れません。



苦勞の末に完成した大会オリジナルグッズ

大会を通して思ったのは、皆さんほんとうに熱心にまじめに大会に参加されていることです。口頭発表の時間は皆さんそちらの会場へ行き、ポスター発表も人でいっぱいとなり、休憩室はいつもほとんど人がいませんでした。企業展示が2社（ナモト貿易と生物研究社）あり、休憩室に展示ブースを設けていたのですが、人が誰も来ないと早々にブースをホールに移動したほどでした。いろいろと不手際が多かった大会だったと思いますが、参加者の皆さんの熱気に助けられたおかげで盛況裏に終えることができたのではないかと感謝の気持ちでいっぱいです。また、最後になりましたが、座長をお引き受け下さった皆様、大会開催にあたりご協力いただいた皆様、学生諸君にあらためて御礼申し上げます。

日本藻類学会第36回大会準備委員会：堀口健雄，本村泰三，阿部剛史，四ツ倉典滋，長里千香子，小亀一弘（敬称略）